

自衛隊が実践的に指導

田辺工業高で防災教室

田辺市あけぼの、田辺工業高は19日、同校グラウンドで防災教室を開いた。自衛隊員に教わりながら、1年生約150人がロープワークや天幕の設営、アルファ米の炊き出し訓練などをした。

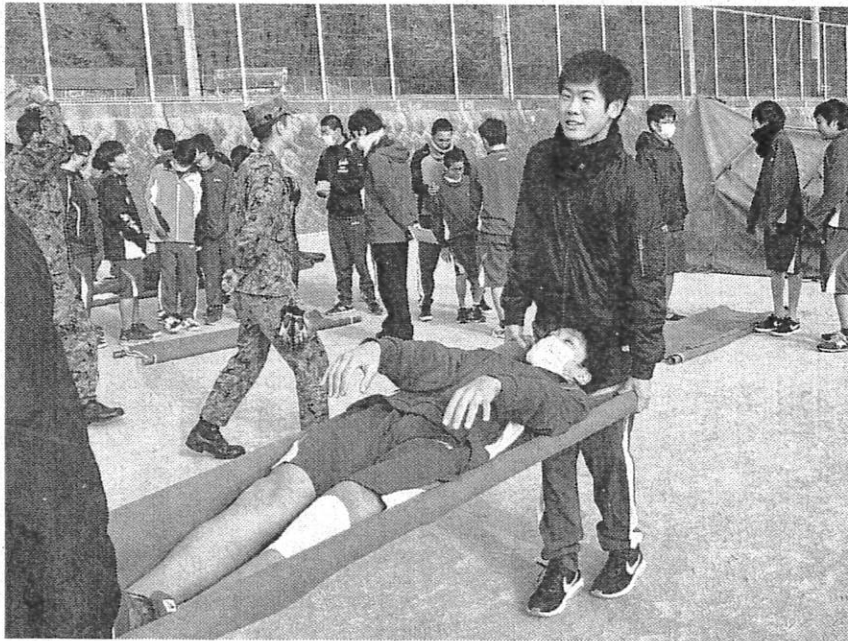
地震や津波、土砂災害などが発生した時に、生徒が自ら判断し、素早く避難できる力を身に付けることが目的。防災教室は毎年開いているが、今年はいよいよ実践的に学ぶため、美浜町の陸上自衛隊和歌山駐屯地第304水際障害中

隊と自衛隊田辺地域事務所の協力で実施した。グラウンドには、東日本大震災の際にも派遣された野外

炊事車を運び込み、炊き出し訓練で実際に湯を沸かした。応急担架の体験では、生徒がパイプ2本と毛布1枚を材料にして担架を作り、互いに乗って運び合った。

小山拓海君(15)は「竹やパイプと毛布があれば担架が作れると初めて知った。いざ

という時には、今日知ったことを役立てたい」と話した。



パイプと毛布で作った応急担架で互いに運び合う生徒

(田辺市あけぼの)